

届け、平和への願い

千羽鶴にこめる 国連職員への平和の祈り



国連事務総長として初めて広島平和記念式典に出席した潘基文（バン・ギムン）国連事務総長は、広島市の秋葉忠利市長に千羽鶴を贈りました。この千羽鶴は、ニューヨークの国連本部と日本の国連諸機関で働くスタッフが世界平和への願いをこめて各500羽ずつ折ったものを、東京の国連広報センターで一つにまとめ上げて作ったものです。

様々な国籍を持つ国連職員が協力して作り上げた千羽鶴。中には初めて折り紙を手にするスタッフもいて、日本人職員の手ほどきを受けながら平和のシンボルである鶴を折り上げました。千羽鶴の色には国連旗に使われている青色と白色に加え、シルバーが選ばれています。



表紙写真：第65回広島平和記念式典であいさつを行う
潘基文（バン・ギムン）国連事務総長
©UN Photos/Eskinder Debebe and Mark Garten

国際連合広報センター（UNIC）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70
国際連合大学本部ビル 8階
Tel: 03-5467-4451 Fax: 03-5467-4455
ウェブサイト <http://www.unic.or.jp>

(2010年12月発行 16,000部)

核兵器のない世界をめざして

潘基文（バン・ギムン）国連事務総長の

5項目提案とは？

1 核軍縮は世界の安全を高めるものでなければなりません

核兵器保有国をはじめ、全ての核不拡散条約（NPT）締結国に、核兵器禁止条約などの核軍縮交渉を行うという条約義務の履行を求めます。また、各国政府は検証に関する研究と開発により一層の投資をすべきです。

2 核軍縮プロセスにおいて、非核兵器保有国の安全を保障しなければなりません。

安全保障理事会の常任理事国は、核軍縮プロセスにおける安全保障問題に関する協議を開始し、非核兵器保有国が核兵器の使用又は脅威の対象とならないことを明確に保障すべきです。

3 核軍縮において、法の支配を強化しなければなりません

包括的核実験禁止条約（CTBT）など、これまでに成立した核軍縮合意の早期発効を図り、核分裂性物質生産禁止条約に関する軍縮会議における交渉を直ちに、無条件で開始できるように、新たな取り組みを行う必要があります。

4 核軍縮は目に見えるものでなくてはなりません

説明責任と透明性の観点から、私は核兵器保有国に対し、自国の目標追求に向けた取り組みに関する情報を、国連に定期的に提供するよう促します。

5 核兵器のみならず、他の兵器がもたらす危険にも取り組まなければなりません

他の種類の大量破壊兵器（WMD）の廃絶、新たなWMDテロ対策、通常兵器の生産と取引の制限など、多くの補完的措置が必要です。



ヒロシマから世界へ 平和のメッセージ

潘基文（バン・ギムン）
国連事務総長



国際連合広報センター

第65回広島平和記念式典における 潘基文 (パン・ギムン) 国連事務総長あいさつ

潘基文 (パン・ギムン) 第8代国連事務総長は2010年8月6日、国連事務総長として初めて広島平和記念式典に出席するとともに、初めて長崎を訪れました。

両被爆地において、事務総長は犠牲者への追悼、被爆者との対話を行い、核兵器のない世界の実現を目指す国連のメッセージを力強く訴えました。

私たちは今、この神聖な場所に身を置き、自らの目で見て、感じ、吸収し、そして深く考えます。

私は国連事務総長として初めて、この悲劇的な日から65周年を迎える平和記念式典に参加できたことを光榮に思います。そして今、深い感動に包まれています。

広島と長崎に原爆が投下された当時、私はまだ1歳でした。私がここで何が起きたのかを十分に把握したのは、しばらく後になってからのことでした。私は少年時代を朝鮮戦争のさなかに過ごしました。炎上する故郷の村を後にして、泥道を山中へと逃れたことが、私にとって最初の記憶の一つとして残っています。多くの命が失われ、家族が引き裂かれ、後には大きな悲しみが残されました。それ以来、私は一生を平和のために捧げてきました。私が今日、ここにいるのもそのためです。

私は、世界平和のために広島に参りました。

私たちは65年前に命を失った人々、そして、その一生を永遠に変えられてしまったさらに多くの人々に対して哀悼と敬意の念を表すため、一堂に会しているのです。命は短くとも、記憶は長く残ります。

皆さまの多くにとって、あの日はまるで、空を焼き尽くした閃光のよう



広島平和記念式典に参列し、犠牲者に黙とうを捧げる
潘基文事務総長夫妻



「未来のリーダーである皆さんに希望と平和のトーチを引き継いでほしい」 広島市立舟入高校での平和交流会で



核兵器のない世界を目指し、国連安全保障理事会は2009年9月、核軍縮および核不拡散に関する史上初の首脳会合を開催

に鮮明に、また、その後に降り注いだ黒い雨のように暗く、記憶に残り続けていると思います。私は皆さまに、希望のメッセージを送りたいと思います。皆さまの一人ひとりに、平和のメッセージを送りたいと思います。より平和な世界を手にするのは可能です。皆さまの力は、それを実現する助けとなります。被爆者の皆さま、あなた方の勇気と不屈の精神で、私たちは奮い立つことができました。次の世代を担う皆さん、若い世代の皆さん、あなた方はよりよい明日の実現に努めています。

皆さまは力を合わせ、広島を平和の「震源地」としてきました。私たちはともに、グラウンド・ゼロ (爆心地) から「グローバル・ゼロ」 (大量破壊兵器のない世界) を目指す旅を続けています。それ以外に、世界をより安全にするための分別ある道はありません。なぜなら、核兵器が存在する限り、私たちは核の影に怯えながら暮らすことになるからです。

Together, we are on a journey from ground zero to Global Zero -- a world free of weapons of mass destruction. That is the only sane path to a safer world.

私が核軍縮と核不拡散を国連の最優先課題に掲げ、5項目提案を出した理由もそこにあります。

私たちの力を合わせる時がやって来たのです。私たちには至るところに新しい友や同志がいます。最も強大な国々もリーダーシップを発揮し始めました。国連安全保障理事会でも、新たな取り組みが生まれています。また、市民社会にも新たな活力が見られます。ロシアと米国は新しい戦略兵器削減条約に合意しました。私たちは4月にワシントンで開催された核セキュリティーサミットで重要な進展を遂げる

ことができました。その成果を踏まえ、次回のサミットが韓国で開催される予定です。

私たちはこの勢いを保たなければなりません。私は9月に国連本部で軍縮会議の取り組みを支援するハイレベル会合を招集する予定です。そのためには、核軍縮に向けた交渉を推し進めなければなりません。それは、包括的核実験の禁止に向けた交渉です。また、兵器用核分裂性物質生産禁止条約 (カットオフ条約) に向けた交渉でもあります。また、被爆者の証言を世界の主要言語に翻訳するなど、学校での軍縮教育も必要です。地位や名声に値するのは核兵器を持つ者ではなく、これを拒む者であるという基本的な真実を、私たちは教えなければならないのです。

65年前、この地には地獄の炎が降り注ぎました。今日、ここ平和記念公園には、一つのともしが灯っています。それは平和のともしが、すなわち、核兵器が一つ残らずなくなるまで消えることのない炎です。私たちはともに、自分たちが生きている間、そして被爆者の方々が生きている間に、その日を実現できるように努めようではありませんか。そしてともに、広島の炎を消しましょう。その炎を希望の光へと変えようではありませんか。核兵器のない世界という私たちの夢を実現しましょう。私たちの子どもたちや、その後のすべての人々が自由で、安全で、平和に暮らせるために。



国連事務総長として初めて長崎を訪れた潘事務総長は、浦上天主堂・被爆マリア小聖堂で核兵器廃絶への強い決意を表した